

KIAC 滞在アーティスト デルフィン・ランソン+間宮千晴が

市内小学校で交流プログラムを開催

フランスを拠点に活動するデルフィン・ランソン氏、間宮千晴氏などが1月に城崎国際アートセンター(KIAC)に滞在し、創作活動を行う。

そのアーティストが KIAC 滞在期間中に、市内小学校の児童を対象に交流ワークショップや創作した作品の鑑賞会を実施する。

1 KIAC 滞在アーティスト

(1) アーティスト名

デルフィン・ランソン(俳優、作家、演出家/活動拠点 フランス)

間宮 千晴(ダンサー・振付家/活動拠点 フランス・日本)

(2) 滞在期間

1月9日(月)～25日(水)

(3) KIAC での創作作品

ア タイトル

『MA ^マCREATURE』(フランス語で生き物の意味)

イ 内容

ともに母親でもある俳優のデルフィン・ランソン氏とダンサーの間宮千晴氏による子どものための参加型舞台作品。子どもの反抗や想像力をテーマに 2016 年制作を開始。

これまでフランスの小学校での 80 回以上のワークショップやショートバージョンの上演を経て、2021 年 3 月にフランス語版ロングバージョンが初演された。

今回の滞在では既にあるフランス語版をもとに日本語版を創作する。

2 交流ワークショップ

(1) 日 時

1月12日(木)午前10時35分～12時05分

(2) 場 所

高橋小学校多目的ホール

(3) 対 象

高橋小学校 全校児童 22 人

(4) 内 容

デルフィンと間宮両氏が、今後の日本公演に向けてセリフを日本語にするため、学校でワークショップや対話を行い日本の子どもたちの感覚や行動の研究を経て、日本語版を創作する。

ワークショップでは頭の中で YES と思っている時と、NO と思っているときの体の反応の違いを探るワークなどを実施する。

3 『MA CREATURE』合同鑑賞会

(1) 日 時

1月24日(火)午前10時30分～12時05分

※4月に合橋小学校と統合する高橋小学校の児童が合橋小学校に通学訓練する日に設定した

(2) 場 所

合橋小学校多目的ホール

(3) 対 象

高橋・合橋小学校 1～5年生 75人

(4) 内 容

デルフィンと間宮両氏などがKIACで創作した日本語版の作品『MA CREATURE』を子どもたちに披露する。「舞台は学校の教室。デルフィン演じる先生に連れられて授業が始まるが、間宮が演じるある女生徒が先生に反抗を始めて…?!」という物語。子どもたちはクラスメイトとして劇に参加するグループと、劇を鑑賞するグループに分かれて参加する。



『MA CREATURE』の一場面(左が間宮さん、右がデルフィンさん)
©Olivia Maurey Barisson

【参考】プロフィール

・デルフィン・ランソン (Delphine Lanson)

俳優、作家、演出家／活動拠点 フランス

1990年にLondon International School of Actingを卒業後、俳優、作家、演出家として活動を開始。イギリス、アメリカ、フランスで舞台や映画に出演。その役柄は、シェイクスピアの作品からスパイ映画まで多岐に亘る。2002年から〈Cie Anomalie & …〉、〈Collectif AOC〉と定期的に共同制作を行っている。映画監督としては、短編劇映画2作品のほか、2013年に初の長編映画『Naitre père』をリリース。最近の主な作品に、長編映画『Entrevoir』や子どものための参加型舞台作品『MA_Créature』がある。



・間宮 千晴 (Chiharu Mamiya)

ダンサー・振付家／活動拠点 フランス・日本

クラシックバレエに取り組んだのち、1996年にダンスの世界の見聞を深めようと渡仏。ダンサー、振付家として、フランスやヨーロッパで、コンテンポラリー・サーカス、演劇、音楽などの異なる分野のアーティストとの創作を続けてきた。2014年には南仏で自身のカンパニーELBISSOPを立ち上げ、異なるジャンルのアートとダンスのコラボレーションを彼女ならではのスタイルで追求している。様々なアーティストとのコラボレーションを重ね、短編・長編の映画にも出演。2018年にはニューヨーク州にあるArt OMIのレジデンスにダンサーとして滞在。2009年からサーカス・カンパニー・Anomalieに所属し、これまでに『Dans le ventre de la ballerine (バレリーナのお腹の中で)』などにダンサー・振付家として参加している。



〔問合せ〕 豊岡市環境経済部大交流課城崎国際アートセンター TEL0796-32-3888(直通)